

在日外国人の医療相談 ネットワークで支援

アジアを中心に難民救済などに取り組むAMDA（アジア医師連絡協議会、本部・岡山市）の「国際医療情報センター関西」（宮地尚子代表）が5日、大阪市内で設立された。東京で開設済みの同センターのネットワークを西日本まで広げ、在日外国人の医療問題を支援するのが目的。6日から、無料の電話相談を始める。

国際医療情報センターは、AMDAの国内支援活動の一環として平成3年に東京で設立。在日外国人からの医療に関する電話相談を行い、先月までに約3700件の相談が寄せられた。

このうち関西地区からの相談は2割を占めている。また来年9月に関西国際空港の開港が予定されるなど外国人の増加が予想されるため、関西の事務所を開設するこ



とになった。

センターでは、京阪神の約130の病院と協力し、外国人からの無料電話相談の窓口を開設。通訳ボランティアが英語、中国語、スペイン語などで医療機関の紹介などの相談を受け付けるほか、医療機関からの相談にも応じる。

宮地代表は「言葉が通じないという理由で外国人が受診を拒否されないよう、医療機関と幅広いネットワークをつくりたい」と話している。

電話相談は毎週月曜日から金曜日まで、午前10時—午後4時。専用電話06・636・2333へ。

開設されたAMDA国際医療情報センター関西。外国人からの電話相談に応じる—5日午後4時、大阪市浪速区で

病院も協力

AMDA関西センター開設

英語、中国語などで対応